

が施行され、 $^{99m}\text{Tc-F}$ 陽性例 9 例 15 肢の描出部位と症状部位は完全に一致した。(5) 正常 2 例の $^{99m}\text{Tc-F}$ はいずれも陰性であった。(6) DVT 14 例 28 肢に $^{125}\text{I-fibrinogen test (FUT)}$ が施行されたが、 $^{99m}\text{Tc-F}$ との一致率は 78.6% ときわめてよく一致した。

いずれの検査も偽陽性例がなく、とくに、 ^{111}In -血小板は心大血管の血栓の検出に有用であり、 $^{99m}\text{Tc-F}$ は FUT との一致率がきわめて高く、DVT の早期診断に有用であると考えられる。

23. 再発・転移甲状腺分化癌の長期生存例の検討

立野 育郎 多田 明 長東 秀一

(国立金沢病院・放)

1965 年以来、放射線療法を含む集学的治療がなされて 10 年以上経過した甲状腺分化癌は 80 例で、10 年生存率は、初発例で 56/66 (88.8%)、再発例で 8/14 (57.1%) であった。再発 14 例の内訳は、乳頭癌 5/9 (55.6%)、濾胞癌 3/5 (60.0%) で、再発例には全例に ^{131}I 大量投与がなされており、現在生存中の 7 例の生存期間は 19 年 1 か月～10 年 10 か月、Performance Status (PS) は 0～1 と良好である。

肺転移に対して、 ^{131}I 治療に期待がもてないとの報告もあるが、自験例ではよく肺に摂取されて有効なものが多く、以後、再発・転移をみとめず長期生存が得られている症例もある。外照射は、あまり有効でないとする見解が一般的であるが、 ^{131}I 摂取のみられない転移部位の照射で腫瘍の縮小したものや、症状の好転したものがある。5-Fu, FT-203, Adriamycin などによる化学療法で、PR の経験はあるが、CR はない。OK-432, Krestin による長期免疫療法で、細胞性免疫は長く良好に保たれたものが多い。TSH 抑制療法は全例に行ったが、多発転移がありながら 10 年以上 PSO の状態で生存している症例もあり、有意義と考える。 ^{131}I が肺転移に奏効した後に、未分化癌転化を起こして急速に肝転移をみとめ死の転帰をとった濾胞癌症例があり、分化癌の治療経過中、留意すべきであるが、放射線療法と未分化癌転化の因果関係は判然としなかった。甲状腺分化癌の再発長期生存例を検討して、その集学的治療の有用性をみとめた。

24. 二次性副甲状腺機能亢進症における Subtraction scintigraphy

安野 泰史	竹内 昭	花井 直子
牧野 直樹	佐々木文雄	加賀 博
外山 宏	河村 敏紀	斎藤 隆司
古賀 佑彦		(名保大・放)
藤田 民夫		(同・泌)
松浦 治	大島 伸一	(中京病院・泌)
今川卓一郎		(同・内)

昭和 57 年 2 月より当院放射線科にて副甲状腺シンチグラフィを目的として ^{201}Tl - ^{99m}Tc -subtraction 法を 22 例について施行した。この内、二次性副甲状腺機能亢進症と診断された 18 例中、副甲状腺摘出術が施行され、部位、重量を確認された 11 例、計 41 個の副甲状腺を対象としシンチグラフィと比較検討した。単純に subtraction した画像で、陽性群と陰性群に分けて、それぞれ摘出標本の重量との関係を見ると 1% の危険率にて有意差を認め、描出された最低重量は、1,800 mg であった。さらにスムージング処理を加えると、ノイズと鑑別困難であった例にも描出が可能となった。これらの群を土群とすると陰性群より土群を差し引いた群との間でも 5% の危険率にて有意差を認めた。スムージング処理にて、より小さい副甲状腺を描出できることが示唆された。以上の結果から、二次性副甲状腺機能亢進症では、重量と集積の程度に正の相関関係があると考えられた。

また、異所性副甲状腺機能亢進症では、本法は、局在を知る上できわめて有用であった。

25. ジャンボデジタルカメラを用いた心臓核医学処理

菅部 寛	小幡 康範	大島 統男
佐久間貞行		(名大・放)
河合 直樹	岡田 充弘	山本 秀平
外畑 巖		(同・一内)

SPECT を用いた運動負荷 ^{201}Tl 心筋シンチの右室病変への応用が可能か否か検討した。

対象は、昭和 58 年 4 月から 59 年 5 月に、当院で SPECT 運動負荷 ^{201}Tl 心筋シンチを施行した 56 名のうち planar image で右室壁が比較的良好に描出された 10 名である。

坐位エルゴメータを用い、25 watt/min にて運動負荷